

令和7年度版

令和6年度 香取市事務事業温室効果ガス

排出量結果報告書

(第2次香取市地球温暖化対策実行計画中間見直し)



令和7年12月

香取市 環境安全課

もくじ

はじめに	p. 1
1 対象とする温室効果ガス	p. 1
2 温室効果ガス排出量削減目標・対象施設の範囲	p. 2
3 活動量	p. 3
4 対象施設別温室効果ガス排出量	p. 5
5 温室効果ガス別排出量	p. 7
6 燃料等種別温室効果ガス排出量	p. 8
7 排出量の比較	p. 9
8 総括	p. 10

はじめに

香取市では、「地球温暖化対策の推進に関する法律」第 21 条第 1 項に基づき、平成 20 年 3 月に、市の事務事業を対象とした「香取市地球温暖化対策実行計画」を策定し、平成 25 年 3 月に「香取市地球温暖化対策実行計画 改訂版」を策定しました。

この計画では、平成 22 年度を基準年度とし、平成 25 年度から平成 29 年度までの 5 年間ににおいて、温室効果ガス総排出量を 6.8%削減することを目標に掲げ、結果として目標数値を上回る 12.6%の削減を実現できました。

計画期間が終了したため、平成 30 年 3 月に「第 2 次香取市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。令和 5 年に中間見直しを実施し、計画最終年度である 2027 年度までに平成 28 年度（基準年度）比 32%に設定しました。

※国の掲げた目標である 2030 年度までに 2013 年度比 46%削減の目標と同様となるよう設定しております。

本報告書では、令和 6 年度分について、結果を報告します。

1. 対象とする温室効果ガス

法律で対象とする温室効果ガスは、次の表 1 の 6 物質ですが、本市事務・事業では、P F C、S F 6 の排出はありません。

表 1 対象とする温室効果ガス

No.	対象物質	主な発生源	排出の有無
1	二酸化炭素 (C O ₂)	電気の使用, 燃料 (ガソリン・灯油・軽油・重油など)	○
2	メタン (C H ₄)	自動車の走行, 化石燃料の燃焼	○
3	一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車の走行, 化石燃料の燃焼	○
4	ハイドロフルオロカーボン (H F C)	冷蔵庫やカーエアコン等の冷媒	○
5	パーフルオロカーボン (P F C)	半導体などの製品の洗浄	×
6	六フッ化硫黄 (S F ₆)	電気機械器具などの電気絶縁ガス	×

2. 温室効果ガス排出量削減目標・対象施設の範囲

平成 28 年度を基準年度とした温室効果ガス排出量の削減目標率は **32%** です。

対象施設は、香取市のすべての施設及び事務・事業の実施に伴う活動を対象とし、次の表 2 のとおりです。（※各担当部署より集計、外郭団体を除く）

表 2 対象施設及び実施組織

分類	件数	対象施設
1. 集会施設	3	香取コミュニティセンター、みずほふれあいセンターなど
2. 文化施設	0	佐原文化会館については香取コミュニティセンターとなり 1. 集会施設に計上。
3. 博物館等	2	伊能忠敬記念館、まほろばの里
4. スポーツ施設	15	市民体育館、小見川スポーツコミュニティセンター、各 B&G 海洋センターなど
5. レクリエーション施設・観光施設	1	水郷佐原あやめパーク
6. 産業系施設	2	水の郷さわら、道の駅くりもと紅小町の郷
7. 学校等	35	市立小中学校
8. その他教育施設	1	香取市学校給食センター
9. 幼保・こども園	9	市立保育園
10. 幼保・児童施設	1	山田児童館
11. 高齢者福祉施設	1	なのはな苑シニア健康プラザ
12. 障害者福祉施設	0	※令和 2 年 4 月から民間運営のため無し。
13. その他社会福祉施設	1	小見川社会福祉センター（さくら館）
14. 庁舎等	5	香取市役所本庁、各支所など
15. 公営住宅	2	市営住宅など
16. 公園	10	小見川城山公園、橘ふれあい公園など
17. 供給処理施設	2	新開町排水機場 田町排水機場
18. 上水道施設	20	玉造浄水場、佐原浄水場、各取水場など
19. 下水道施設	24	佐原浄化センター、入船橋ポンプ場、小見川浄化センターなど
20. その他施設	40	十間川ポンプ場など
21. 街路灯	326	市内街路灯（※防犯灯を除く契約分類数）
22. 公用車	188	公用車
計	688	

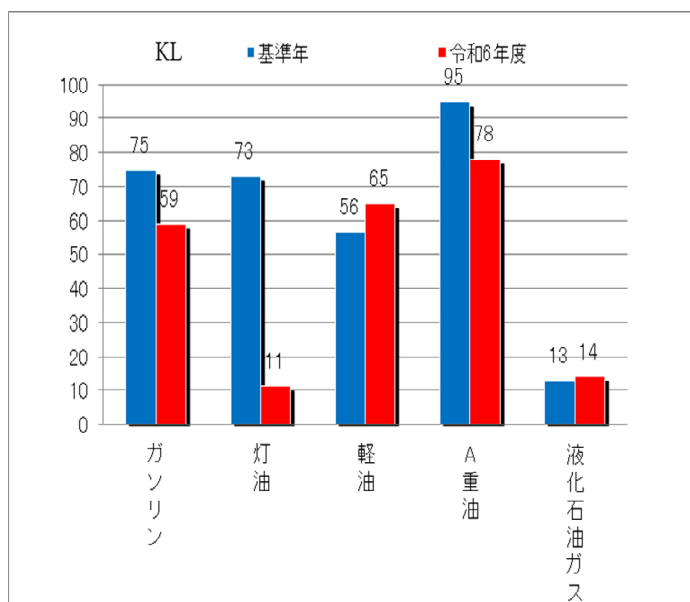
3. 活動量

令和6年度の温室効果ガス排出に関する活動量は、次の表3のとおりです。

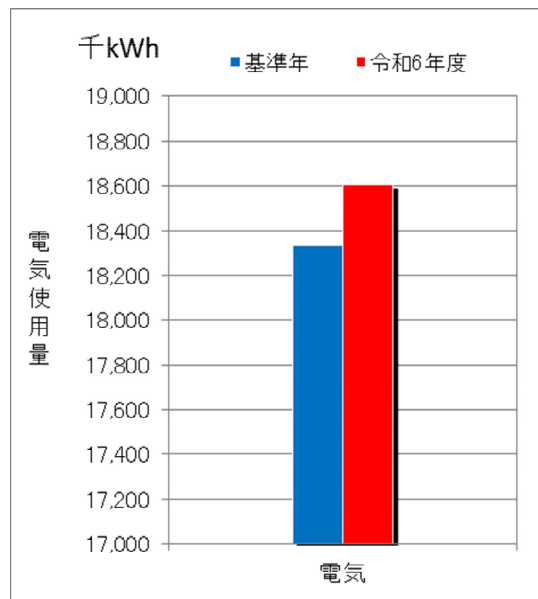
表3 活動量

用途	項目		単位	基準年度 (平成28年度)	令和6年度	内訳
燃料 使用 量	ガソリン		L	74,584	58,633	機械、自動車
	灯油		L	73,155	10,534	暖房用、燃料用
	軽油		L	56,473	64,807	機械、自動車
	A重油		L	94,778	77,007	空調、ボイラー等
	液化石油ガス (LPG)		m³	12,984	14,496	給湯用
電気使用量			kWh	18,331,172	18,605,405	照明、空調、設備
自動車 の 走行 距離	ガ ソ リ ン	普通・小型乗用車	km	492,357	121,435	ガソリン車
		軽自動車	km	196,240	250,834	〃
		普通貨物車	km	2,982	0	〃
		小型貨物車	km	86,466	269,679	〃
		軽貨物車	km	180,709	7,806	〃
		特殊用途車	km	2,501	657	〃
	軽 油	普通・小型乗用車	km	4,839	47,663	ディーゼル車
		小型貨物車	km	76,325	87,790	〃
		特殊用途車	km	5,640	0	〃
		バス	km	217,381	265,272	〃
HFC-134a 封入 カーエアコンの使用台数			台	182	188	自動車エアコン
下水処理量（終末処理場）			m³	4,198,076	4,409,030	公下終末処理 場処理量
浄化槽（使用人数）			人	9,356	4,770	浄化槽処理量 集排終末処理 場処理量

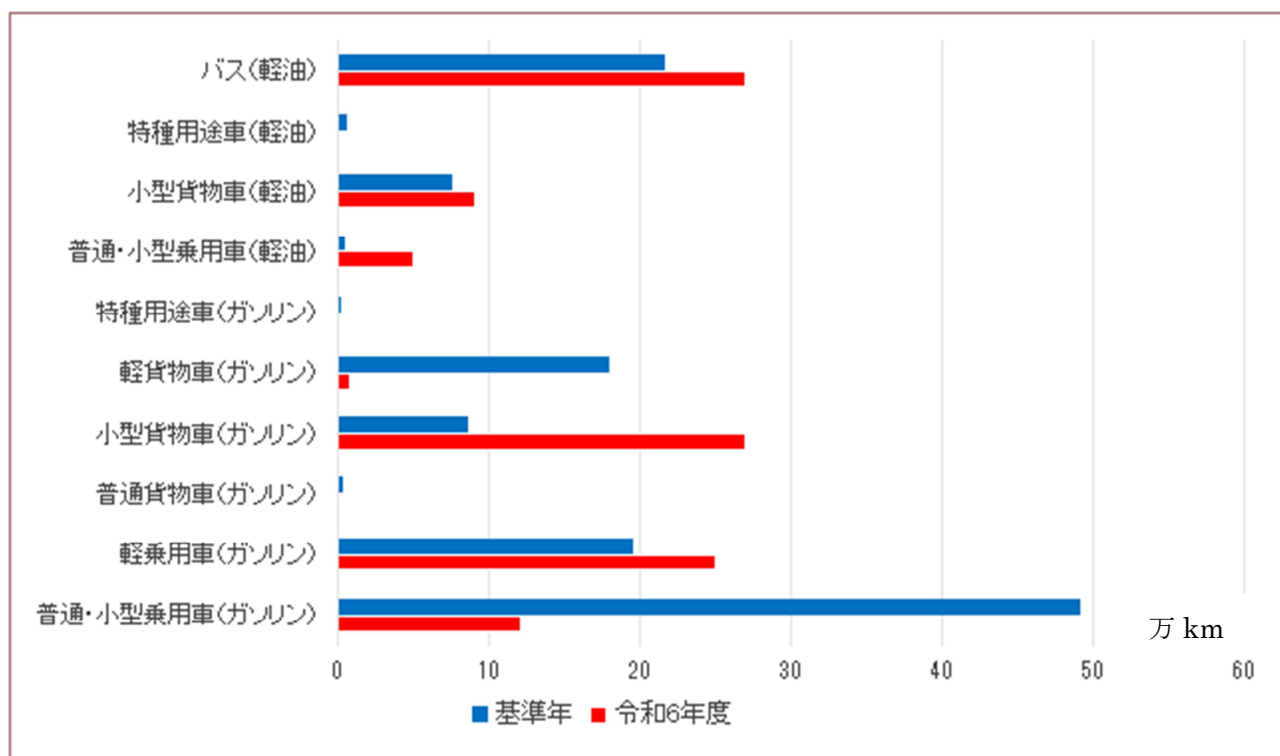
グラフ 1－1 燃料使用量



グラフ 1－2 電気使用量



グラフ 2 自動車の走行距離



4. 対象施設別温室効果ガス排出量

令和6年度の施設ごとの排出量は表4のとおりです。

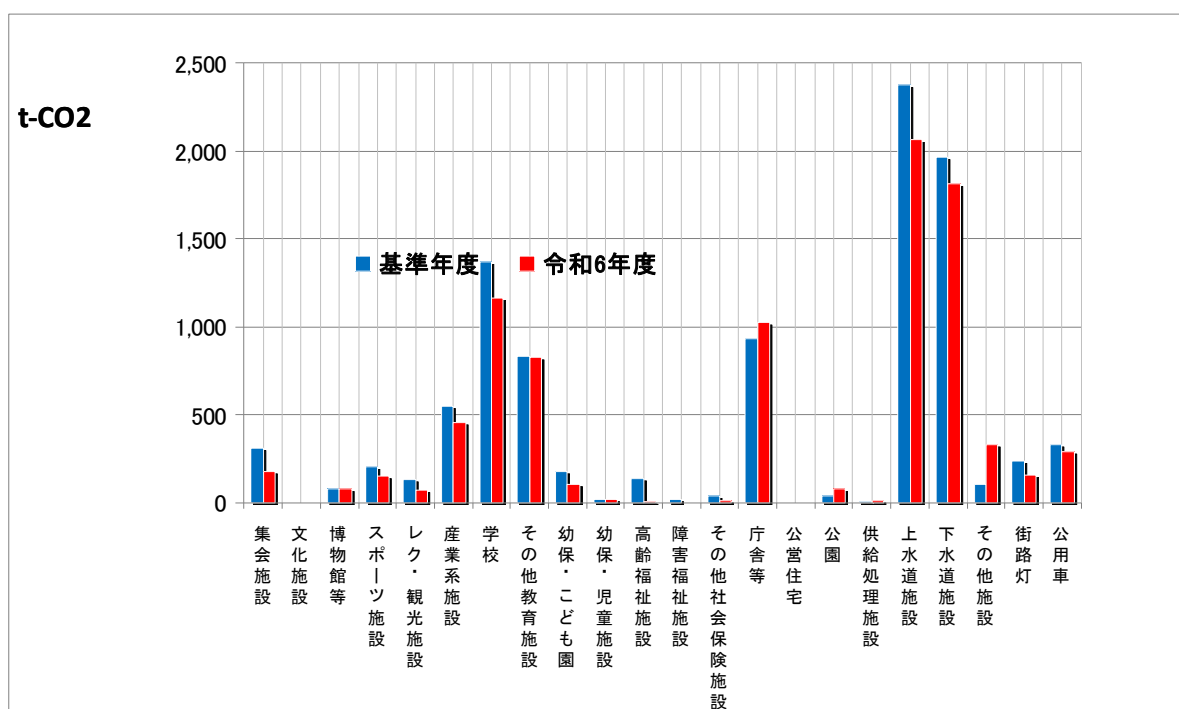
表4 対象施設別温室効果ガス排出量

(単位：kg-CO₂)

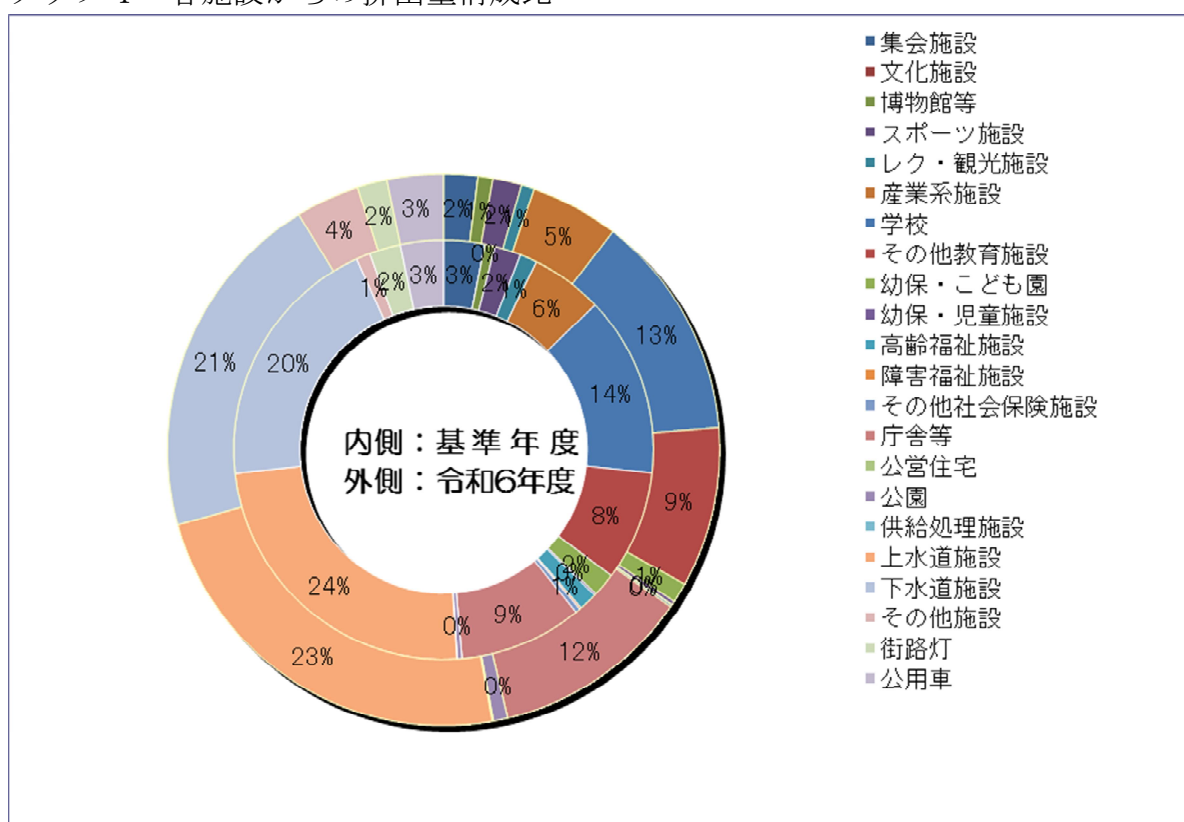
分類	基準年度 (平成28年度)	令和6年度	比較増減	増減率
1. 集会施設	311,202	175,817	△ 135,385	△ 43.5%
2. 文化施設	0	0	0	0
3. 博物館等	76,465	76,700	235	0.3%
4. スポーツ施設	200,132	149,015	△ 51,117	△ 25.5%
5. レクリエーション施設・観光施設	130,841	67,005	△ 63,836	△ 48.8%
6. 産業系施設	545,372	455,826	△ 89,546	△ 16.4%
7. 学校	1,367,220	1,163,307	△ 203,913	△ 14.9%
8. その他教育施設	832,759	824,241	△ 8,518	△ 1.0%
9. 幼保・こども園	176,595	102,326	△ 74,269	△ 42.1%
10. 幼保・児童施設	14,797	19,332	4,535	30.6%
11. 高齢福祉施設	138,650	2,602	△ 136,048	△ 98.1%
12. 障害福祉施設	13,906	0	△ 13,906	△100.0%
13. その他社会保険施設	35,531	11,110	△ 24,421	△ 68.7%
14. 庁舎等	931,568	1,022,763	91,195	9.8%
15. 公営住宅	0	0	0	0
16. 公園	34,127	73,277	39,150	114.7%
17. 供給処理施設	4,304	7,015	2,711	63.0%
18. 上水道施設	2,377,535	2,060,871	△ 316,664	△ 13.3%
19. 下水道施設	1,965,927	1,812,811	△ 153,116	△ 7.8%
20. その他施設	105,122	328,698	223,576	212.7%
21. 街路灯	237,077	153,536	△ 83,541	△ 35.2%
22. 公用車	326,180	289,994	△ 36,186	△ 11.1%
合計	9,825,310	8,796,246	△ 1,029,064	△ 10.5%

施設分類では、多くの施設で基準年度と比較して減少しています。これは、東日本大震災以降の省エネ対策が継続しているためで、主に電気、燃料由来（暖房、空調用）のCO₂排出量の減少が理由です。

グラフ 3 各施設からの排出量



グラフ 4 各施設からの排出量構成比



5. 温室効果ガス別排出量

令和6年度の温室効果ガス別排出量は、表5のとおりです。

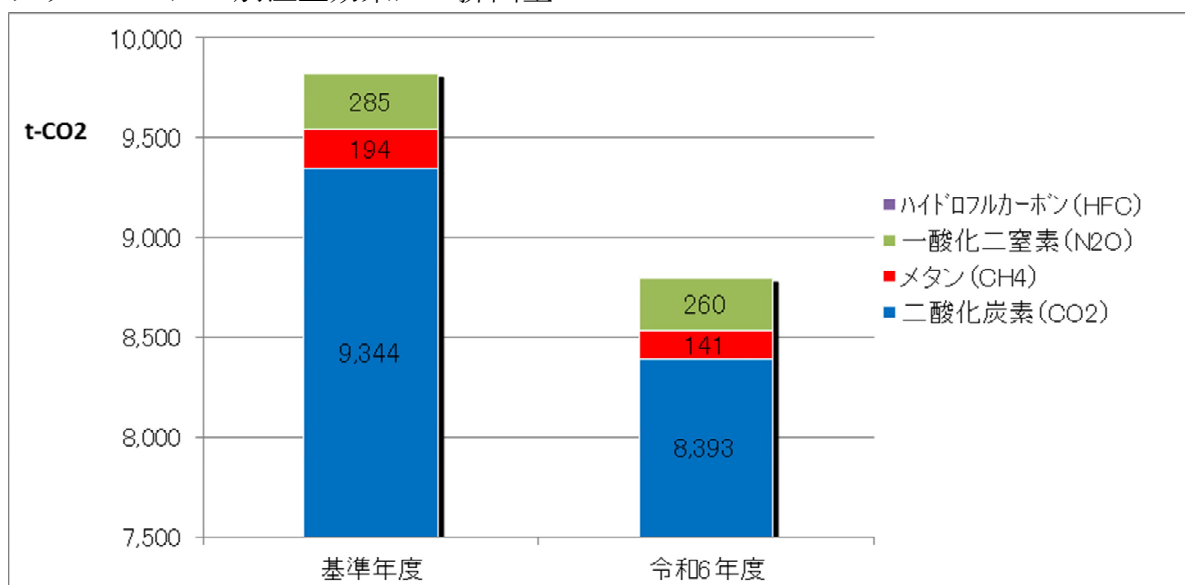
内訳では、二酸化炭素（CO₂）が95.4%と、そのほとんどを占めています。

表5 温室効果ガス別排出量

（単位：kg-CO₂）

温室効果ガス	基準年度 (平成28年度)	令和6年度	構成比	増減率
二酸化炭素 (CO ₂)	9,344,492	8,392,808	95.4%	△ 10.2%
メタン (CH ₄)	193,810	140,855	1.6%	△ 27.3%
一酸化二窒素 (N ₂ O)	284,642	260,139	3.0%	△ 8.6%
ハイドロフルオロカーボン (HFC)	2,366	2,444	0.0%	3.3%
合計	9,825,310	8,796,246	100%	△ 10.5%

グラフ5 ガス別温室効果ガス排出量



6. 燃料等種別温室効果ガス排出量

令和6年度の発生源別排出量は、表6のとおりです。

排出量が最も多かったのは、電力使用によるもので、88.6%を占め、以下、燃料の使用が約6.8%、公共下水処理が約4.5%、自動車の走行が約0.1%を占めています。

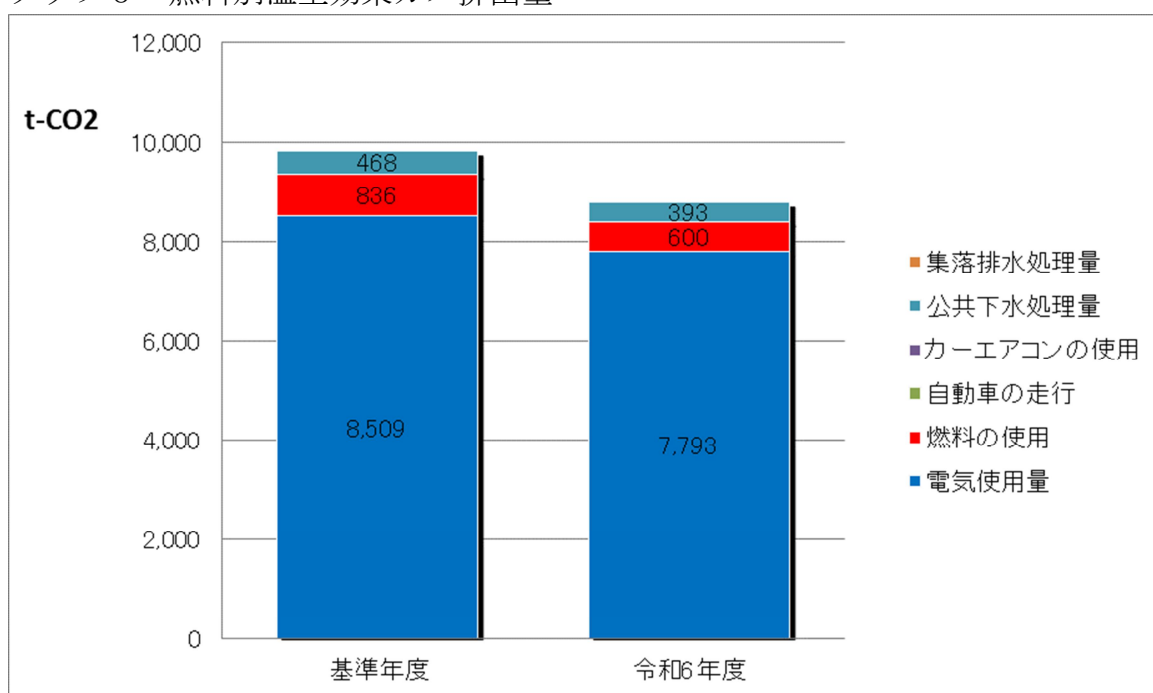
なお、自動車の走行とは公用車の年間走行距離のことで、公用車の燃料消費は、燃料の使用に含まれています。

表6 発生源別排出量

(単位：kg-CO₂)

項 目	基準年度 (平成28年度)	令和6年度	構成比	増減率
電気使用	8,508,543	7,792,842	88.6%	△ 8.4%
燃料の使用	835,949	599,966	6.8%	△ 28.2%
自動車の走行	10,018	7,717	0.1%	△ 23.0%
カーエアコンの使用	2,366	2,444	0.0%	3.3%
公共下水処理	468,434	393,277	4.5%	△ 16.0%
集落排水処理	0	0	0.0%	0%
合計	9,825,310	8,796,246	100.00%	△ 10.5%

グラフ6 燃料別温室効果ガス排出量



7. 排出量の比較

温室効果ガス別と発生源別の排出量を比較した内訳は、次の表7のとおりです。

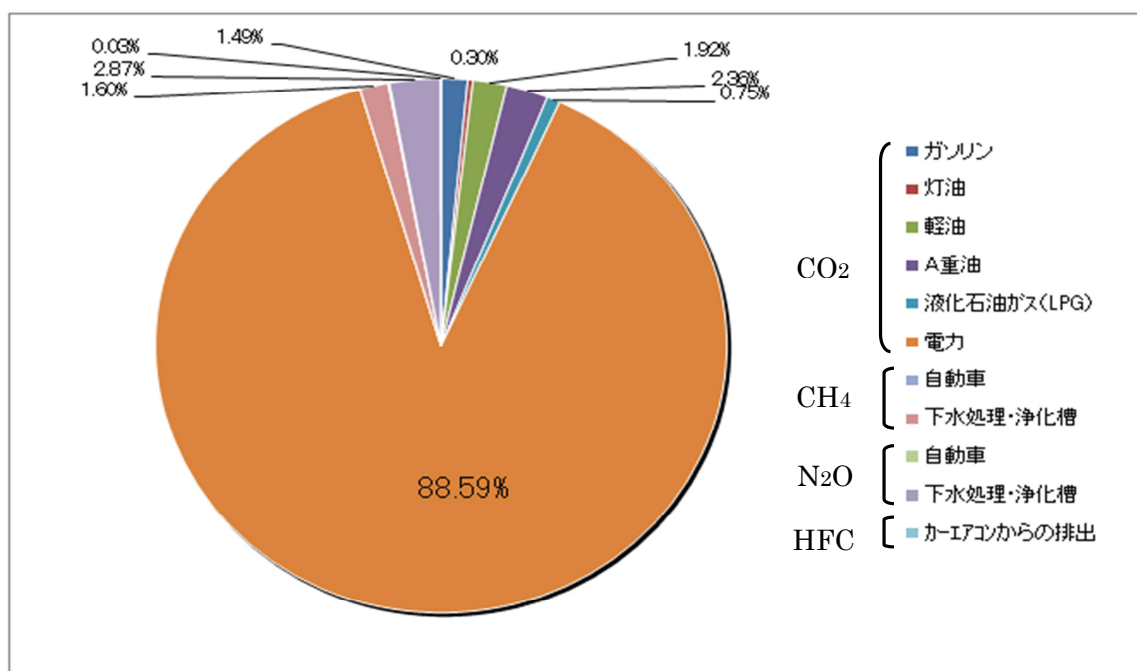
二酸化炭素の発生源の軽油、ハイドロフルオロカーボンのカーエアコンからの排出を除く項目で減少しました。排出量が最も多いのは、電力使用によるものであることがグラフ7からわかります。

表7 温室効果ガス別排出量

(単位：kg-CO₂)

温室効果ガス	燃料等	基準年度 (平成28年度)	令和6年度	比較増減	増減率
二酸化炭素 (CO ₂)	ガソリン	173,158	131,247	△ 41,911	△ 24.2%
	灯油	182,118	26,074	△ 156,044	△ 85.7%
	軽油	145,981	169,033	23,052	15.8%
	A重油	256,813	207,593	△ 49,220	△ 19.2%
	液化石油ガス(LPG)	77,879	66,019	△ 11,860	△ 15.2%
	電力	8,508,543	7,792,842	△ 715,701	△ 8.4%
メタン (CH ₄)	自動車	309	276	△ 33	△ 10.7%
	下水処理・浄化槽	193,501	140,579	△ 52,922	△ 27.3%
一酸化二窒素 (N ₂ O)	自動車	9,709	7,441	△ 2,268	△ 23.4%
	下水処理・浄化槽	274,933	252,698	△ 22,235	△ 8.1%
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	カーエアコンからの排出	2,366	2,444	78	3.3%
合計		9,825,310	8,796,246	△ 1,029,064	△ 10.5%

グラフ7 燃料別温室効果ガス排出量構成比



8. 総括

令和 5 年度に「第 2 次香取市地球温暖化対策実行計画」の中間見直しにより温室効果ガス排出量の削減目標を見直し、平成 28 年度を基準年度（9,825 t-CO₂）として、令和 9 年度までに 32%の削減を掲げました。

令和 6 年度において、香取市事務事業全体での総排出量は約 8,796t-CO₂ で、基準年度に対しての削減率は 10.5%の減少となりました。温室効果ガス排出量を継続的に削減していくためには、計画に基づいた取組を実践していくとともに、施設更改時に空調、照明、OA 機器等の設備選定に省エネ効果の高いものを優先的に採用していく必要があります。